# 2026年度（2027年3月期）
# 第2四半期決算説明資料

2026年11月11日

H.U.グループホールディングス株式会社

（証券コード：4544）

# はじめに

※　本資料では、記載している部分及びEBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却費）の数値を除いて、日本基準（J-GAAP）に基づく数値にて開示しております。

※　「親会社株主に帰属する当期（四半期、中間）純利益/純損失」を「当期（四半期、中間）純利益/純損失」と省略する場合があります。

※　数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。

※　各セグメント名及び事業名について、実際のビジネスをわかりやすくお伝えするため、一部下記のとおりの表現としております。

IVD*：　臨床検査薬事業（富士レビオ）

LTS*：　検査・関連サービス事業（エスアールエル）

HS*：　ヘルスケア関連サービス事業（日本ステリ 他）

CDMO
(Contract Development and Manufacturing Organization)
➔「CRDMO」
(Contract Research, Development and Manufacturing Organization)

※　本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2025年度 上期：　1 USD ＝ 146.05 JPY　1 EURO ＝ 168.07 JPY

2026年度 上期：　1 USD ＝ 159.38 JPY　1 EURO ＝ 184.36 JPY

* セグメント略称：　IVD (In-Vitro Diagnostics), LTS (Lab Testing and its related Services), HS (Healthcare-related Services)

# 1. サマリー（連結業績）

# 上期は増収増益。通期ガイダンス達成に向けて、順調な進捗

| | 売上高 | EBITDA | 営業利益 | 中間純利益 | EPS |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1,258 億円 | 146 億円<br>EBITDAマージン<br>11.6% | 45 億円<br>営業利益率<br>3.6% | 33 億円 | 60.9 円 |
| 対前年 | +14億円 / +1.1% | +12億円 / +8.7% | +22億円 / +94% | +31億円 / 16.2倍 | +57円 / 16.7倍 |
| 通期進捗率 | 49.1% | 50.3% | 50.1% | 66.9% | 67.6% |
| （参考）期初ガイダンス | 2,560億円 | 290億円 | 90億円 | 50億円 | 90.1円 |

# 通期業績予想を上方修正

**子会社・関連会社の組織再編等に伴う財務上の影響を考慮し、当期純利益を上方修正**

- 売上高、営業利益、経常利益については変更なし

| | 売上高 | EBITDA | 営業利益 | 当期純利益 | EPS |
|---|---|---|---|---|---|
| 期初ガイダンス | 2,560 億円 | 290 億円 | 90 億円 | 50 億円 | 90.1 円 |
| 修正後ガイダンス | 2,560 億円 | 290 億円 | 90 億円 | 60 億円 | 110.1 円 |

# 富士レビオ（IVD）及び エスアールエル（LTS）両セグメントで増収増益

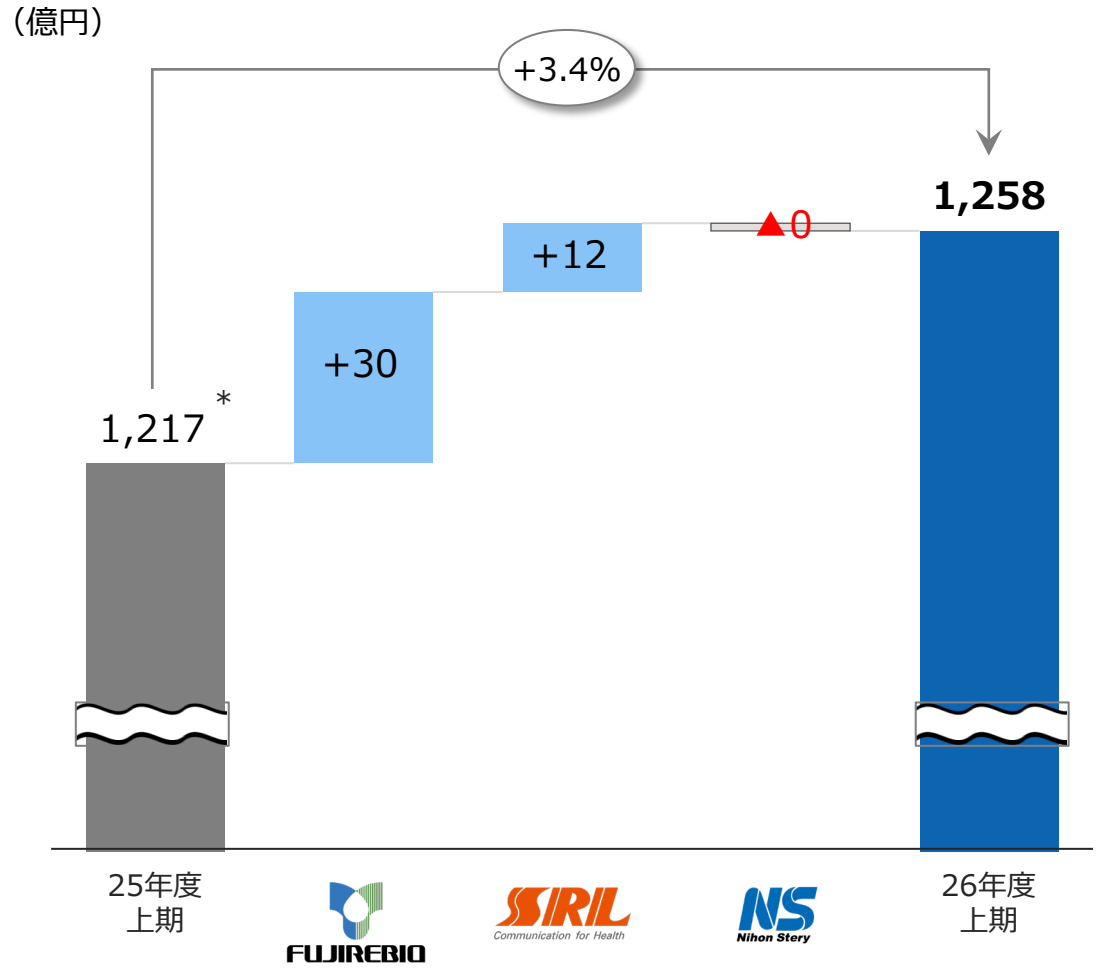
上段：対前年増減/成長率
下段：通期計画の進捗率

| | 売上高 | EBITDA | 営業利益 | 主なポイント |
|---|---|---|---|---|
| FUJIREBIO（IVD） | 324 億円<br>+30億円 / +10%<br>49.9% | 84 億円<br>+8億円 / +11%<br>51.4% | 55 億円<br>+7億円 / +15%<br>50.4% | **海外成長が全体の成長を牽引**<br>• NEUROとCRDMOの合計は、対前年＋22%成長<br>• 国内ルミパルス（ベース）は対前年+4%成長<br>• 2Qは営業利益率が改善 |
| SRL Communication for Health（LTS） | 804 億円<br>+12億円 / +1.5%<br>49.0% | 76 億円<br>+16億円 / +27%<br>49.3% | 12 億円<br>+22億円 / + --%<br>46.1% | **黒字化が定着。ゲノム関連検査で差別化**<br>• 価格適正化及び固定費削減施策の効果が発現<br>• ゲノム関連検査は、高成長を継続<br>• 参考：25年度は、あきる野関連一時費用あり（9億円） |
| NS Nihon Stery（HS） | 130 億円<br>▲1億円* / ▲1.0%*<br>48.0% | 10 億円<br>▲3億円* / ▲21%*<br>40.6% | 7 億円<br>▲3億円* / ▲28%*<br>41.0% | **安定した事業だが、人件費増による営業利益減益**<br>• 滅菌・手術関連事業では、価格適正化が進捗したが、人件費増により、営業利益は減少<br>• 訪問看護事業は、利用者数が増加 |

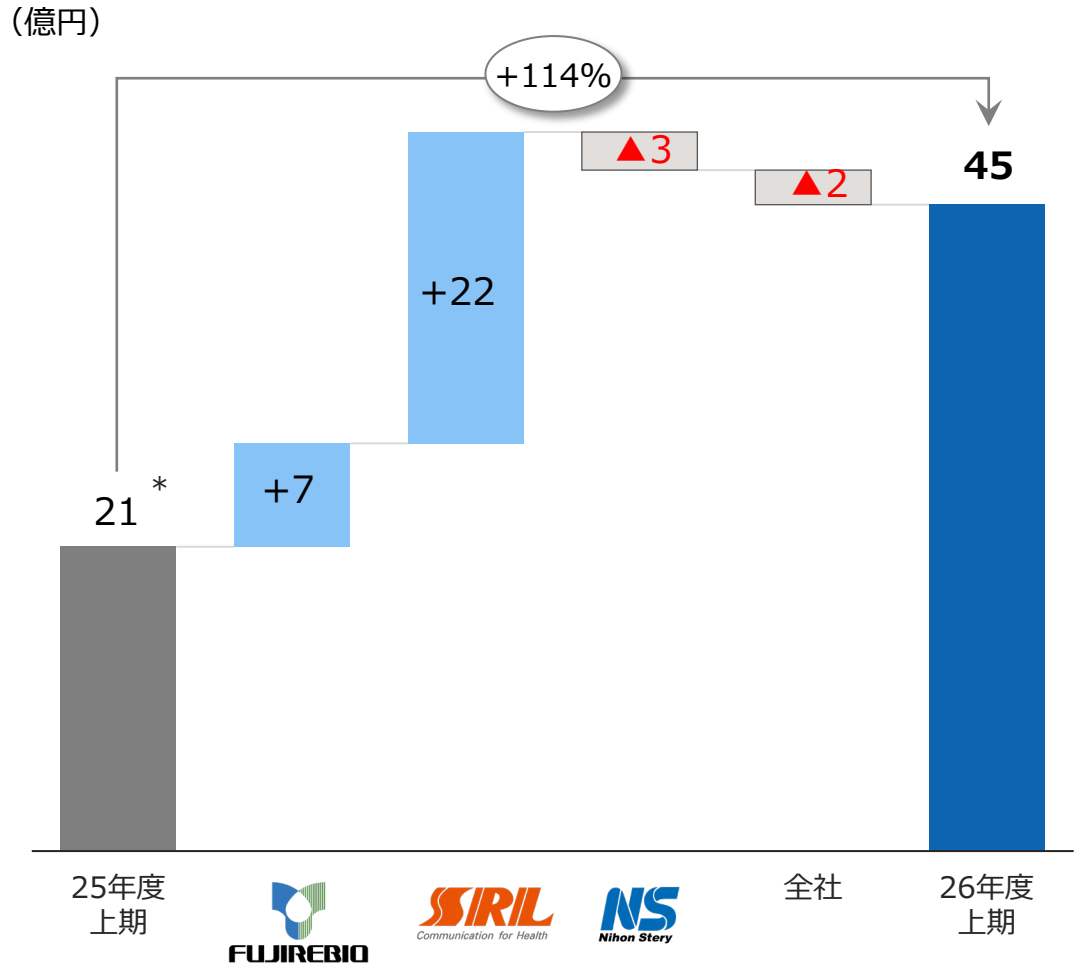
＊ 連結除外したケアレックスの影響を**除く**（売上高 ▲27億円、EBITDA ▲7億円、営業利益 ▲2億円の影響）

# 事業売却の影響を除くと、売上高は対前年+3.4%、営業利益は+114%

## 連結売上高



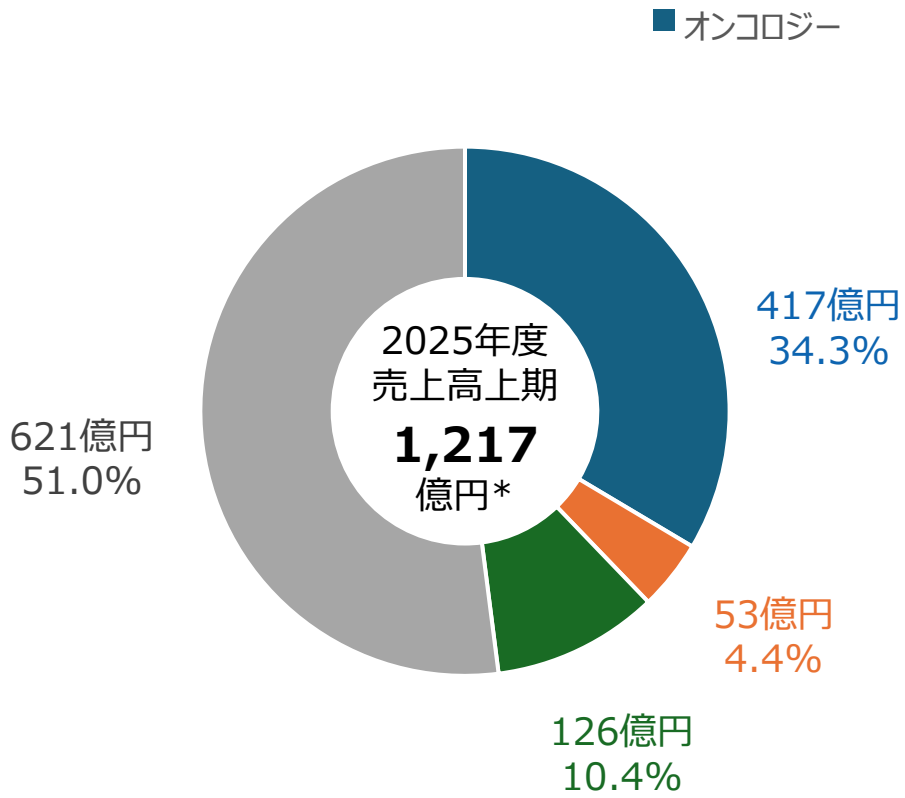

## 連結営業利益



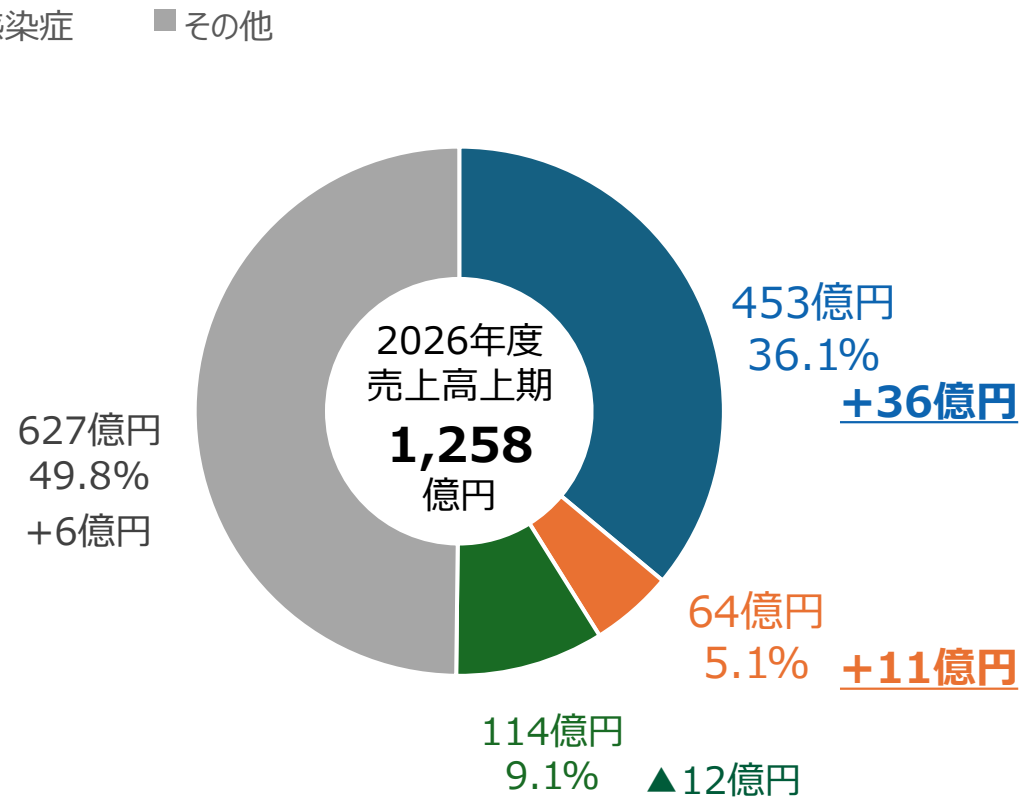

＊ 連結除外したケアレックスの影響を**除く**（売上高 ▲27億円、営業利益 ▲2億円の影響）

# 疾患別では、オンコロジー領域 及び NEURO領域が売上高成長を牽引

## 2025年度上期




## 2026年度上期

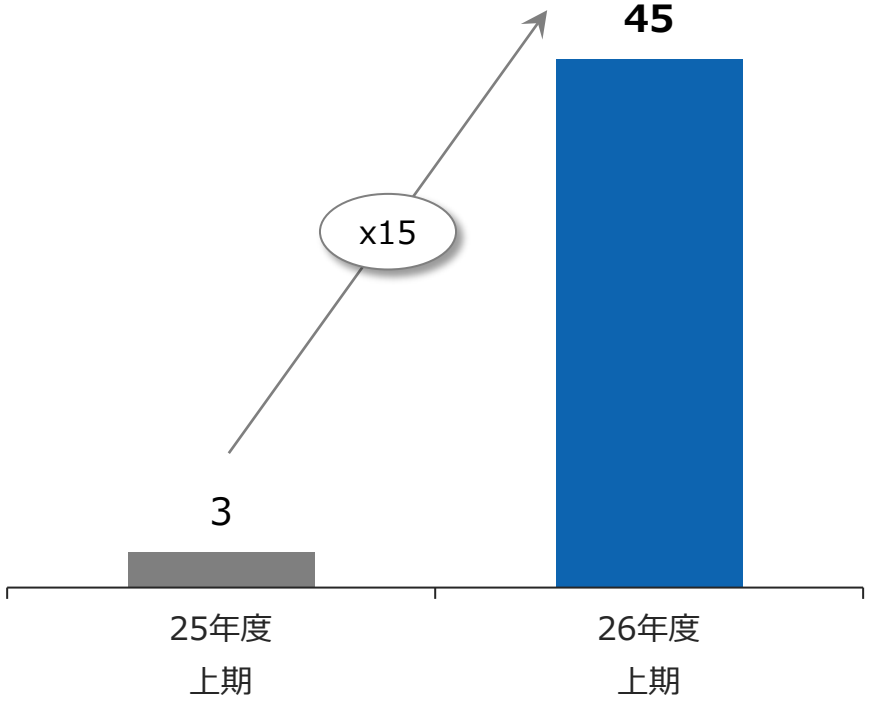



* 連結除外したケアレックスの影響を**除く**（売上高 ▲27億円の影響）

# 連結経常利益 及び 中間純利益は、対前年15倍以上と大きく改善

## 連結経常利益

（億円）

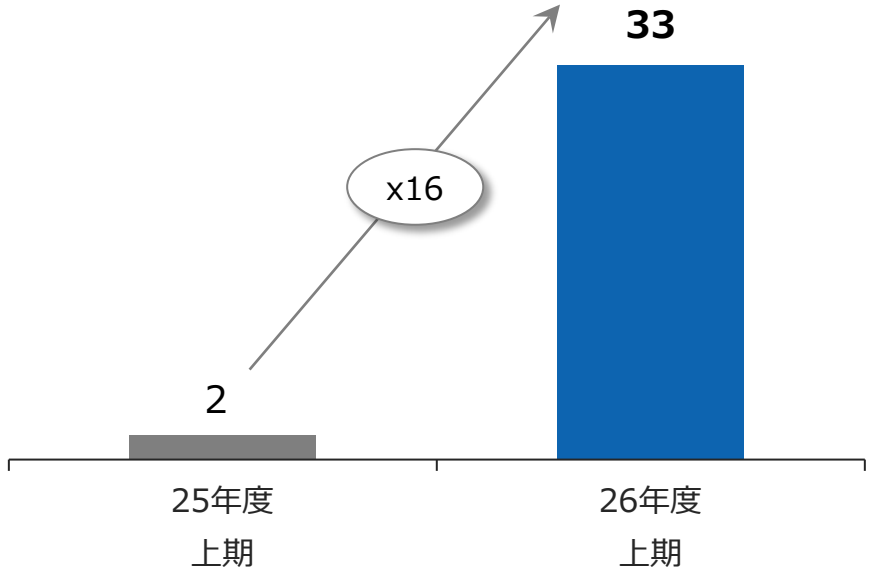



主な営業外損益

- 25年度上期は、為替差損（4.3億円）及び持分法による投資損失（10.8億円）が発生

## 中間純利益

（億円）




主な特別損益

- 固定資産売却益　2.4億円

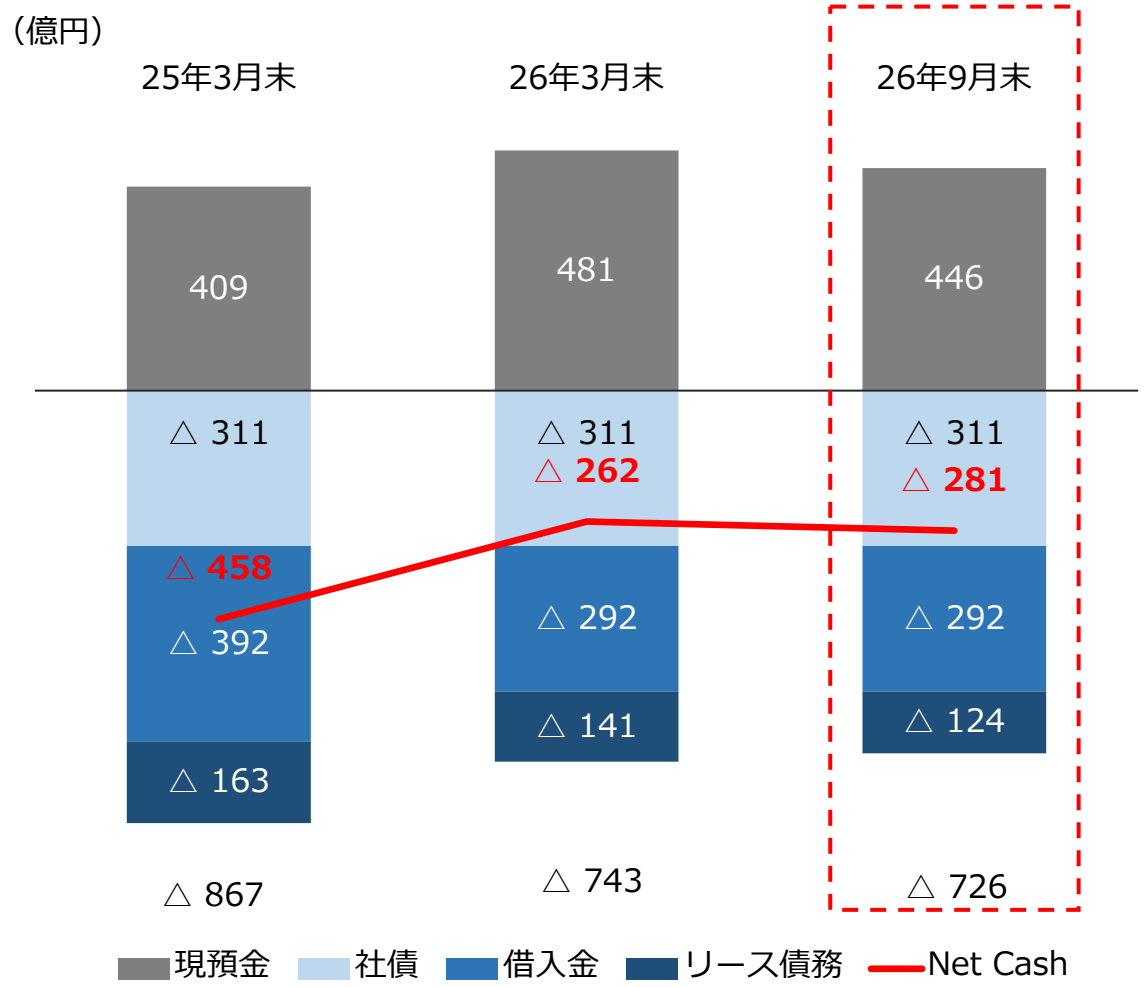
# BSの圧縮が進捗（減価償却及び自己株式取得）

## 連結貸借対照表（前期末比較）

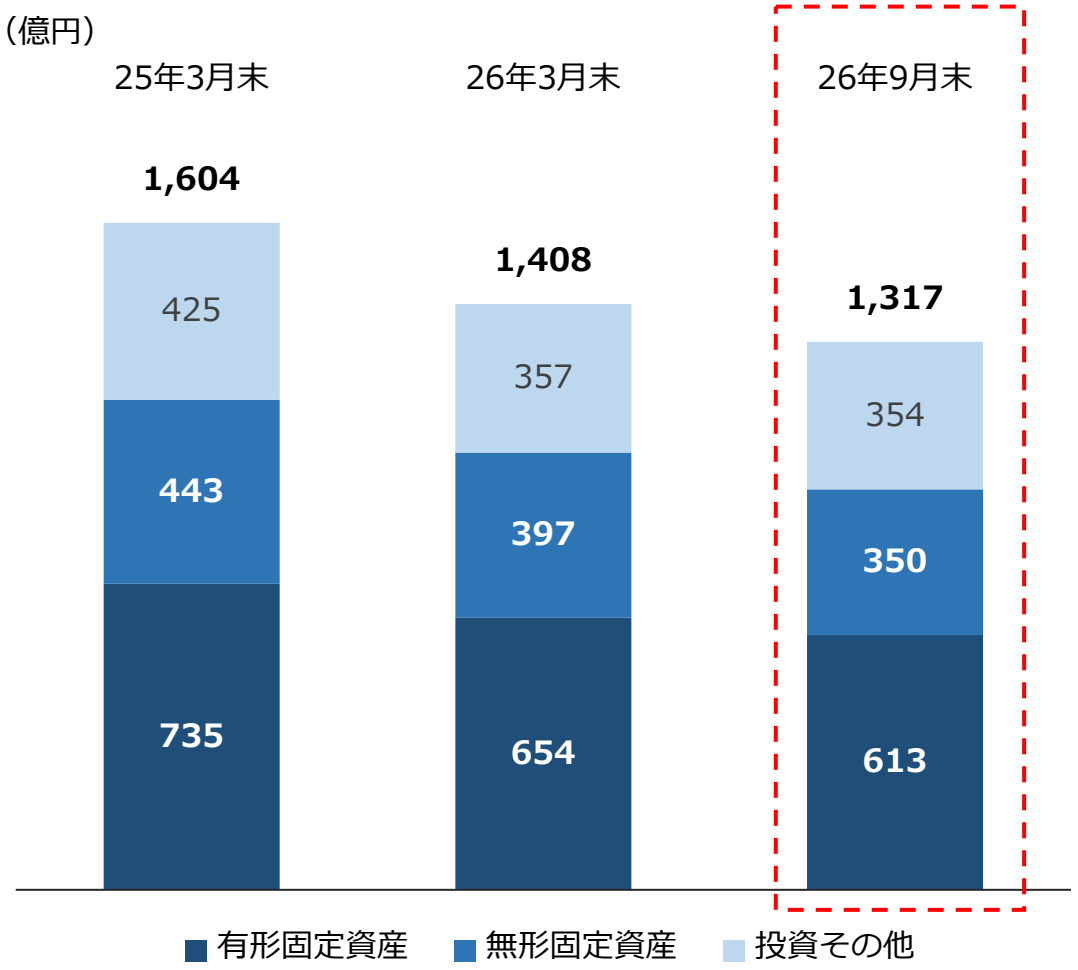
| （億円） | 2026年3月末 | 2026年9月末 | 増減 | | 2026年3月末 | 2026年9月末 | 増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 流動資産 | 1,266 | 1,271 | +4 | 負債 | 1,300 | 1,276 | △ 24 |
| 現金及び預金 | 481 | 446 | △ 35 | 仕入債務 | 203 | 202 | △ 1 |
| 売上債権 | 470 | 474 | +4 | 有利子負債 | 743 | 726 | △ 17 |
| 棚卸資産 | 240 | 259 | +19 | その他 | 353 | 347 | △ 6 |
| その他 | 75 | 91 | +17 | 純資産 | 1,375 | 1,312 | △ 63 |
| 固定資産 | 1,408 | 1,317 | △ 91 | 自己資本 | 1,373 | 1,311 | △ 63 |
| 有形固定資産 | 654 | 613 | △ 41 | 株主資本 | 1,202 | 1,153 | △ 48 |
| 無形固定資産 | 397 | 350 | △ 47 | その他包括利益累計額 | 172 | 157 | △ 14 |
| 投資その他の資産 | 357 | 354 | △ 2 | 非支配株主持分等 | 2 | 2 | △ 0 |
| 繰延資産 | 0 | 0 | △ 0 | | | | |
| **資 産 合 計** | 2,675 | 2,588 | △ 87 | **負債純資産合計** | 2,675 | 2,588 | △ 87 |

# 財務規律は維持

## 現預金・有利子負債の推移



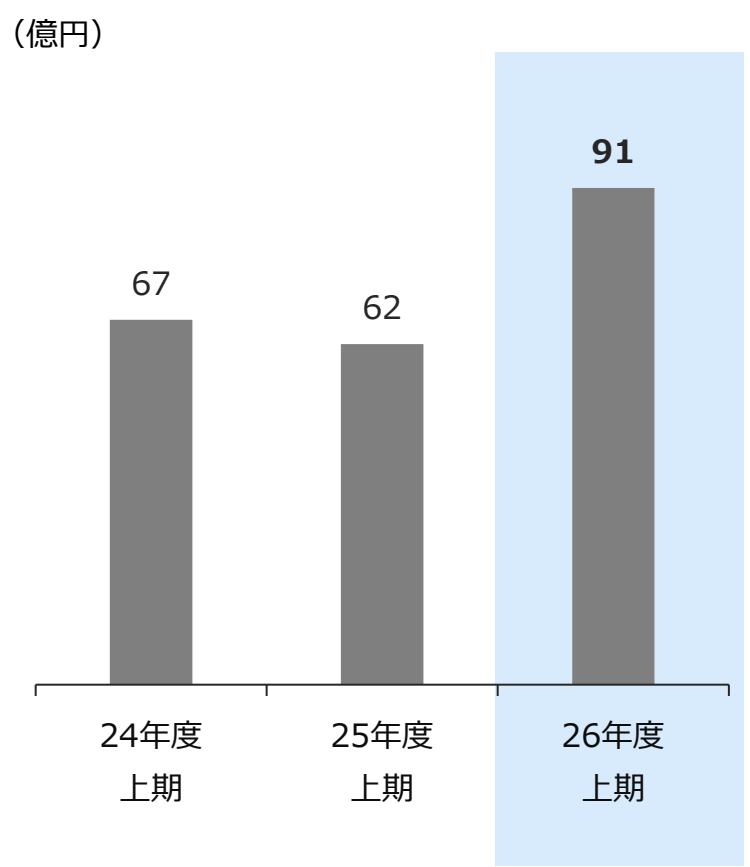

## 固定資産の推移



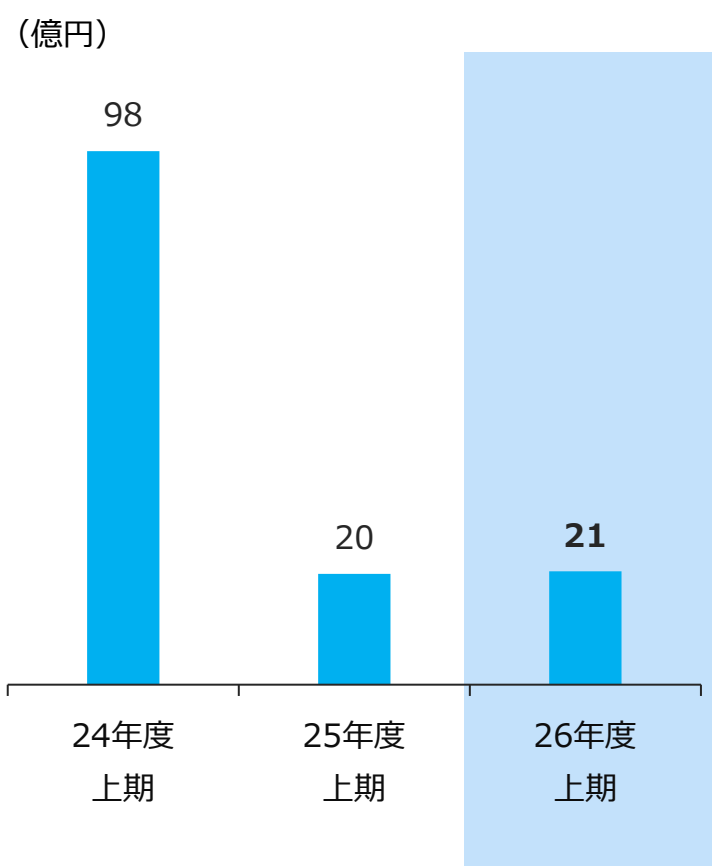
キャッシュフローの推移（過去3年間）

# 事業成長 及び 投資コントロールにより、フリーCFは 対前年+67%

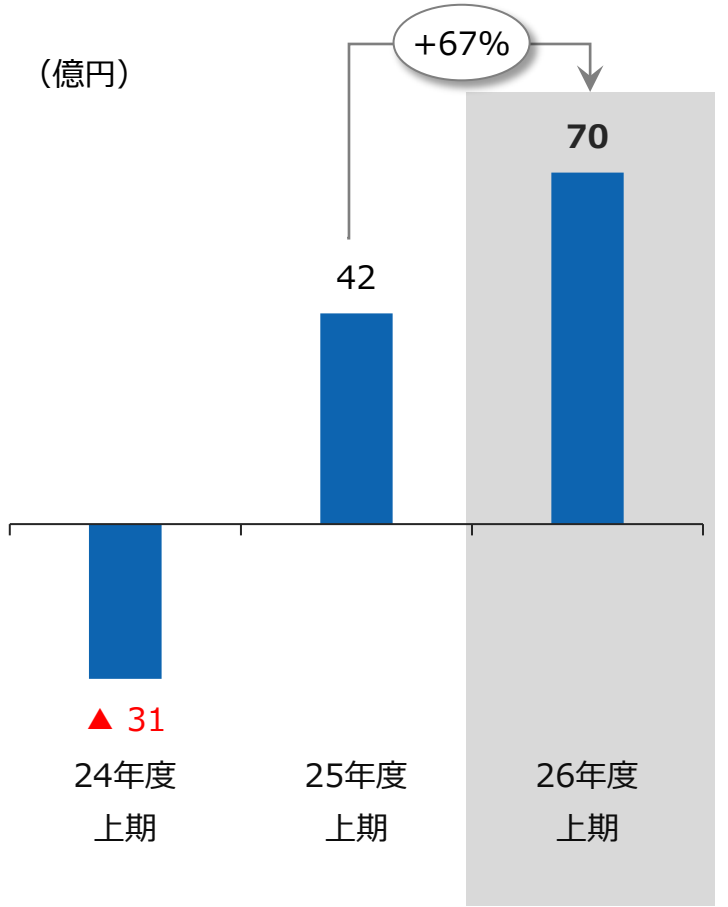
## 営業CF（キャッシュ・イン）




## 投資CF（キャッシュ・アウト）




## フリーキャッシュフロー（FCF）

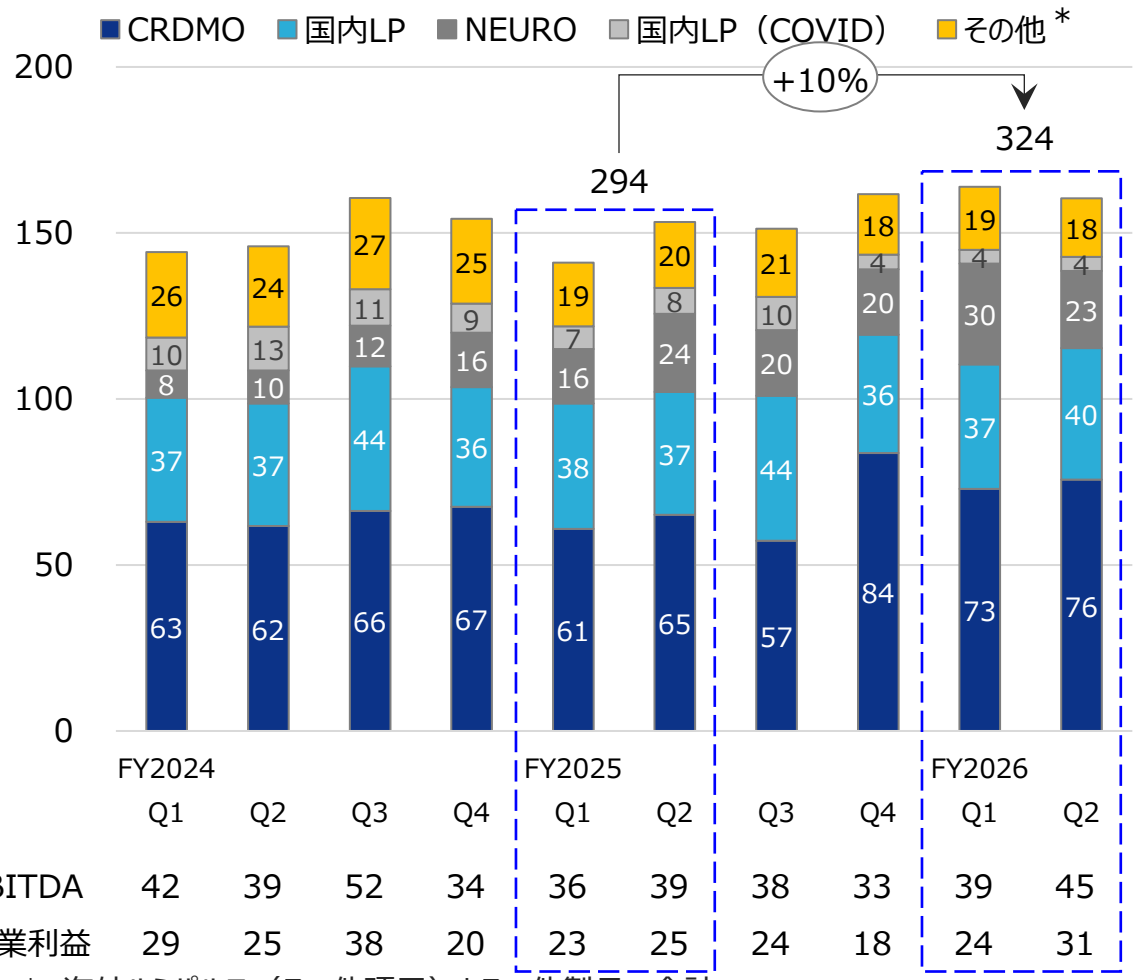


# 2. セグメント別詳細

# 海外成長に牽引され、売上高も営業利益も対前年2桁成長

## 四半期推移

（億円）




| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| EBITDA | 42 | 39 | 52 | 34 | 36 | 39 | 38 | 33 | 39 | 45 |
| 営業利益 | 29 | 25 | 38 | 20 | 23 | 25 | 24 | 18 | 24 | 31 |

＊ 海外ルミパルス（その他項目）とその他製品の合計

## 対前期比

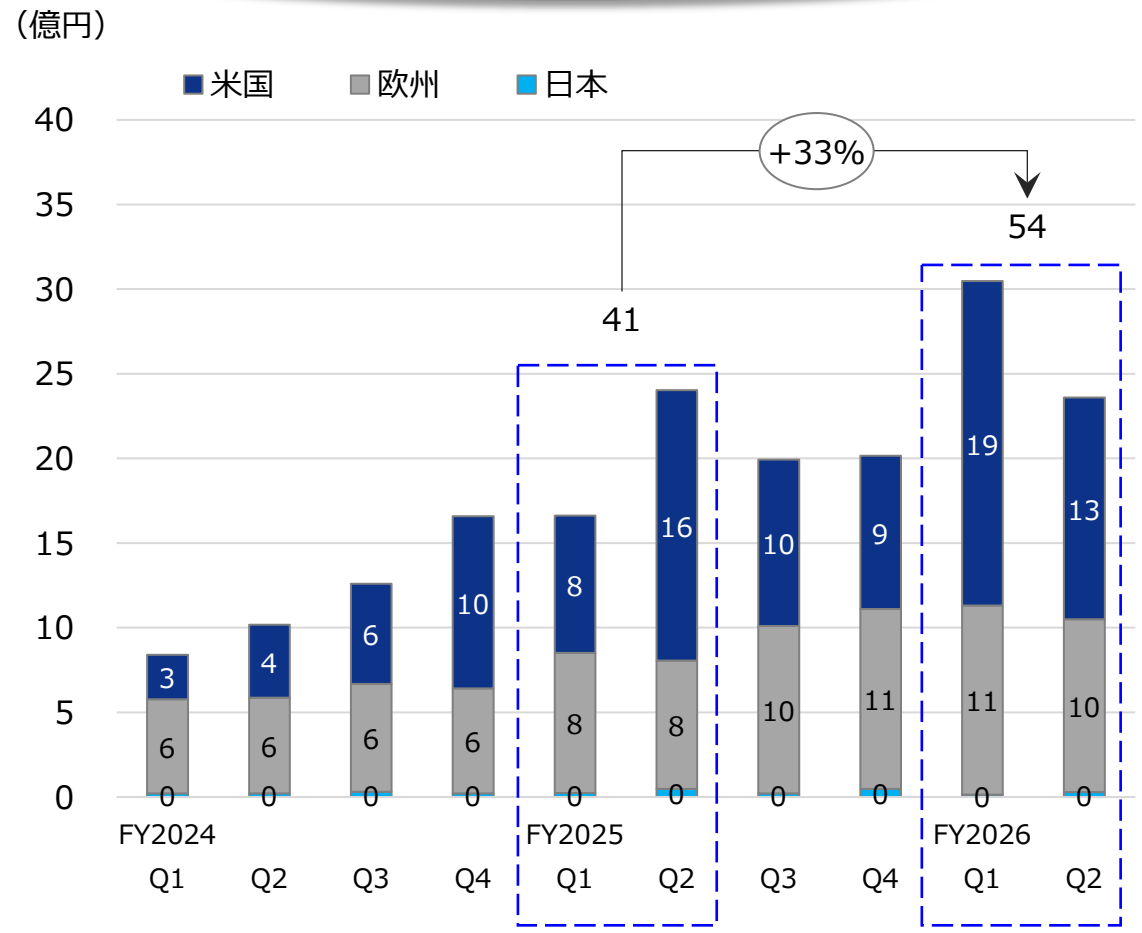
| | 25年度上期 | 26年度上期 | 増減 | 率 |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 294 | 324 | +30 | +10.2% |
| ルミパルス | 136 | 148 | +11 | +8.4% |
| 国内（ベース） | 75 | 77 | +3 | +3.7% |
| 国内（COVID-19） | 15 | 8 | -6 | -42.2% |
| 海外（NEURO） | 41 | 54 | +13 | +33.0% |
| 海外（その他項目） | 7 | 9 | +2 | +31.4% |
| CRDMO | 126 | 149 | +23 | +18.0% |
| その他 | 32 | 28 | -4 | -13.3% |
| EBITDA | 76 | 84 | +8 | +10.7% |
| 営業利益 | 48 | 55 | +7 | +14.9% |

主なポイント：

- 成長領域（「NEURO」「CRDMO」合計）は、対前年＋22%成長
- 国内ルミパルス（ベース；COVID-19以外）は対前年+4%成長
- 為替影響：売上高＋18.7億円、営業利益＋3.9億円

# NEUROは、米国・欧州の成長に牽引され、上期で対前年+33%成長

## NEURO：四半期推移

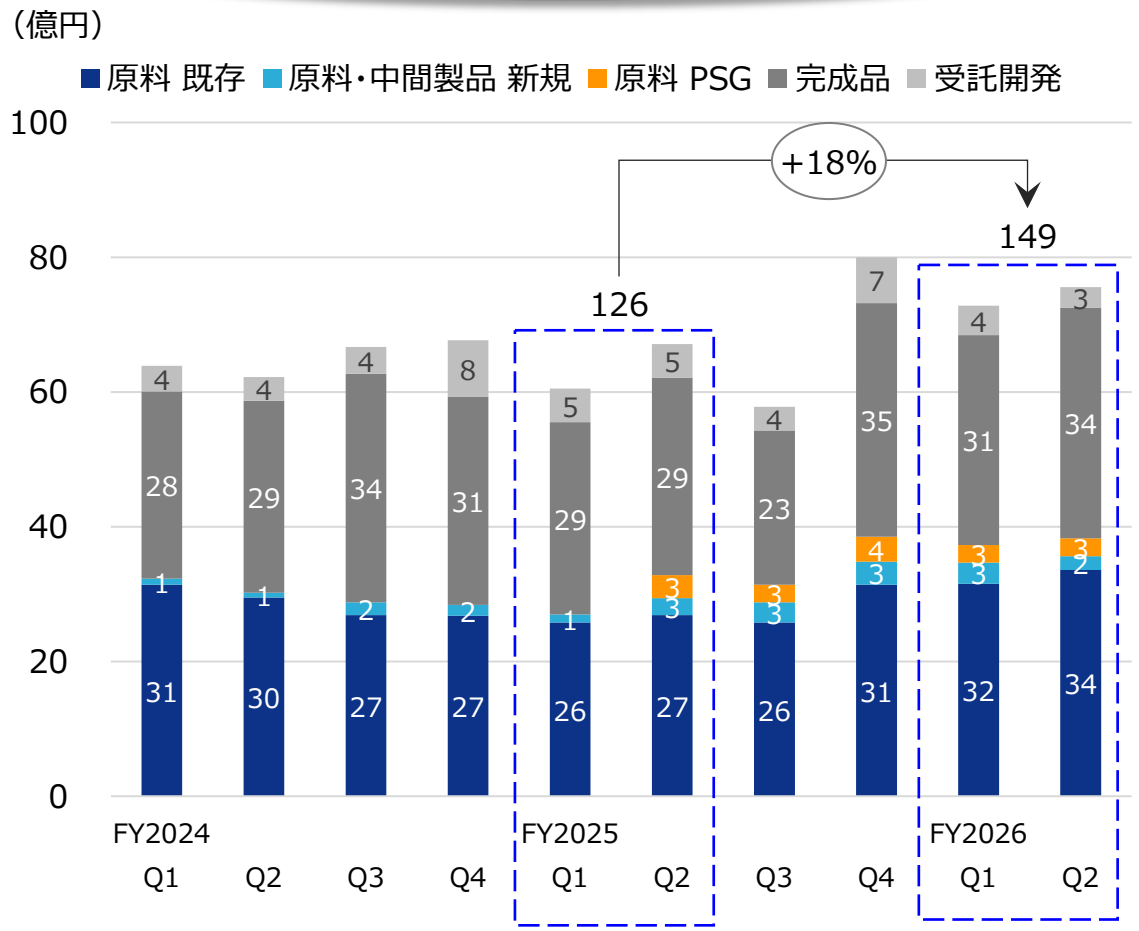



## トピックス

- 米国・欧州を中心に、ルミパルスの血液試薬が安定的に成長
  - 上期合計、対前年同期比 ＋33%
  - pTau217、βアミロイド1-42以外にも、NfL（ニューロフィラメントライト）試薬も販売好調
- NEURO領域における当社プレゼンスを強化すべく、次の項目開発を加速
  - ルミパルス試薬・原料開発チーム（日欧米）のリソース80%を今後3年間、NEUROに注力することを決定
    - 参考：現在は40%程度
  - 旧ADx NeuroSciencesの資産（抗体、KOLネットワーク等）を活用し、ユニーク項目の早い製品化
    - 抗体取得～プロトタイプ化～RUO製品～IVD化
  - 日本：pTau217の製造販売承認を取得（11/11）
- 製薬・診断薬企業とのパートナーシップの拡大
  - 製薬企業との協業の深化・拡大
  - 地理的拡大：ブラジル承認・上市（シスメックス社との協業）

# 完成品に加え、原料供給も回復し、CRDMOは上期で対前年+18%成長

## CRDMO：四半期推移




## トピックス

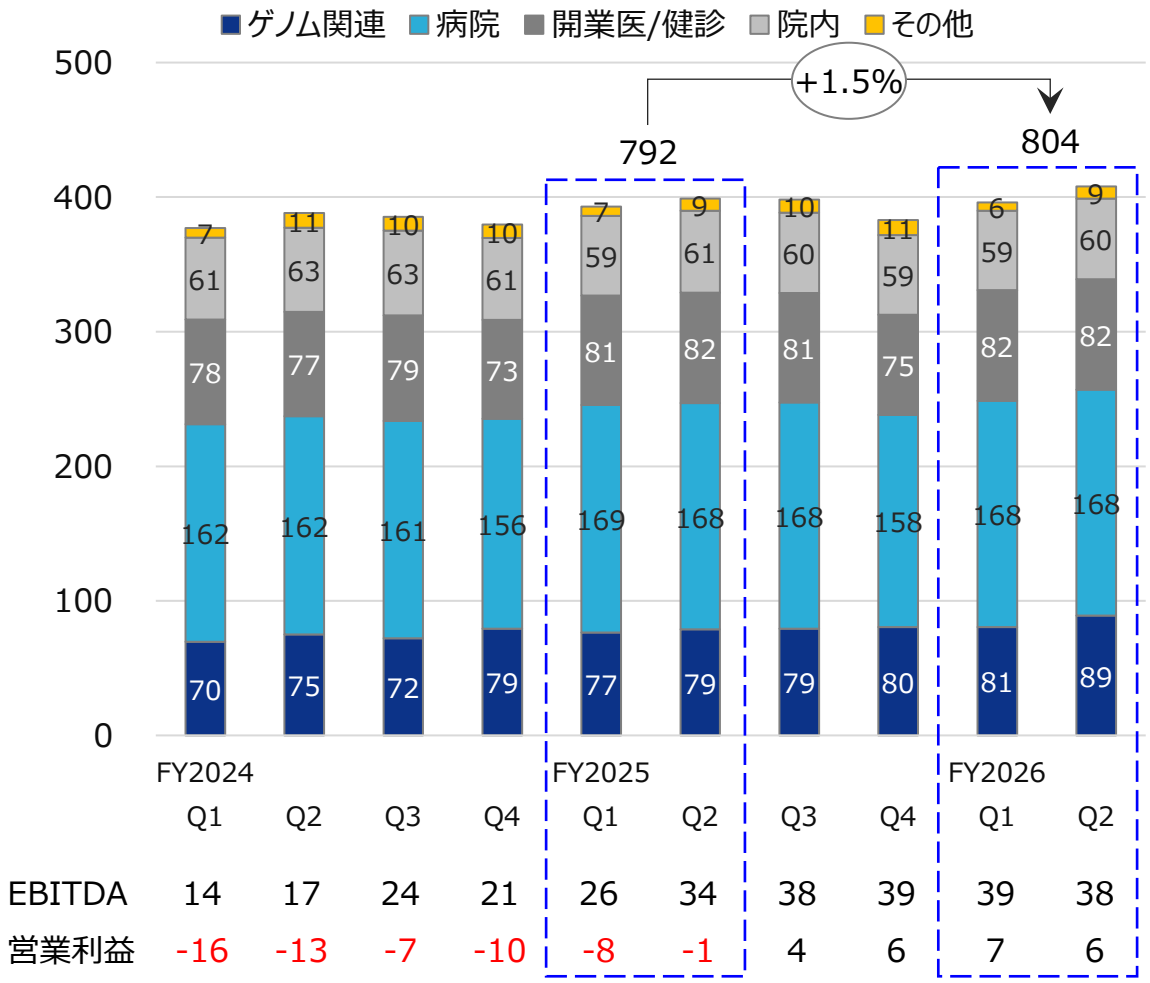
- CRDMO全体では対前年+18%成長
  - 為替影響を除いても、対前年+7%成長
- 既存CRDMO（腫瘍マーカー中心）は、「完成品」「原料供給」両方のビジネスにおいて回復・成長
  - 対前年+18%成長
- 新規CRDMOの製品・原料も順調に出荷が進む
  - 「ビタミンD」、感染症項目；インド他
  - 下期は、中国市場向けNEURO試薬出荷が開始（pTau217他）

※ 当社のユニークな事業をより的確に表すビジネス呼称に変更：
**「診断薬CRDMO」**（Contract **R**esearch, Development and Manufacturing Organization）
- パートナー企業に Research & Development（項目探索、新規項目の試薬開発等）の協業を実施する点が、当社の一番の特徴

# 価格適正化及び固定費改善施策が進捗し、営業利益は対前年大幅改善

## 四半期推移

（億円）




## 対前期比

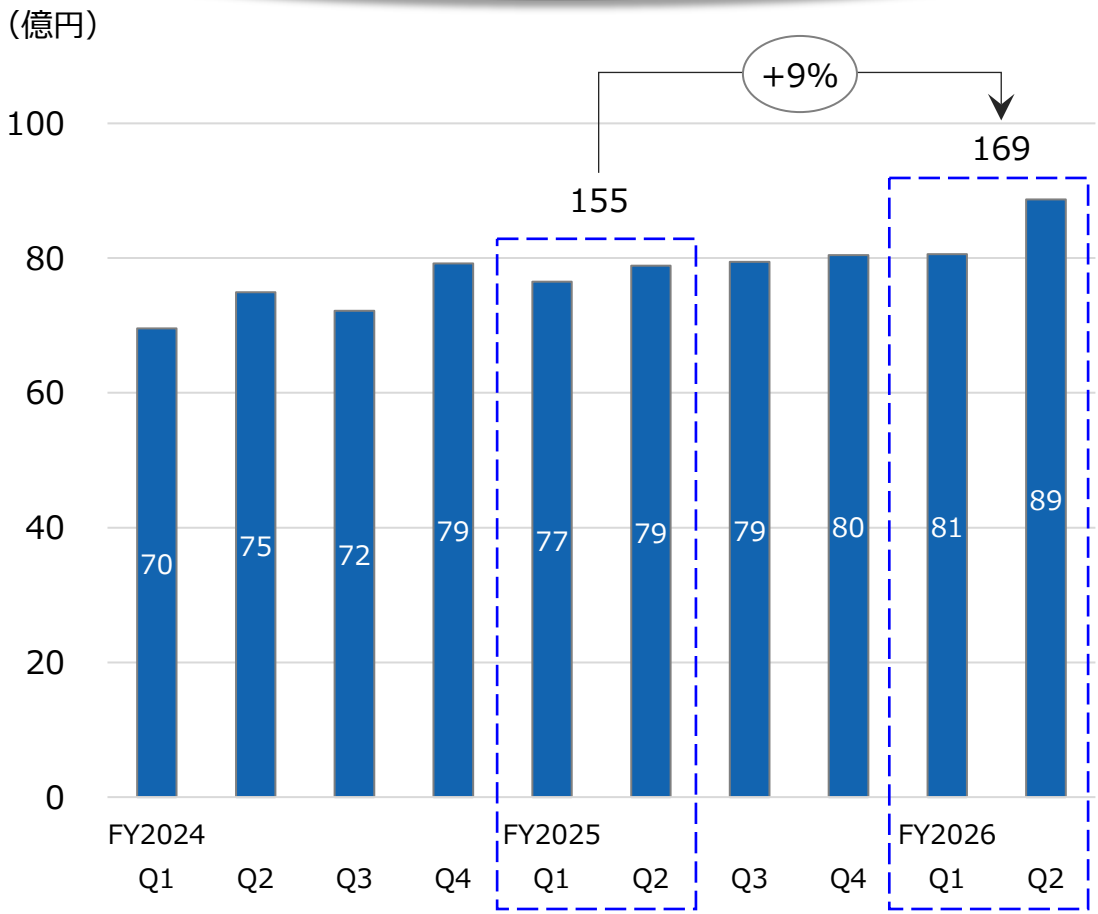
| | 25年度 上期 | 26年度 上期 | 増減 | 率 |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 792 | 804 | +12 | +1.5% |
| 院外事業 | 656 | 669 | +14 | +2.1% |
| 病院 | 492 | 505 | +13 | +2.7% |
| 内、ゲノム関連検査 | 155 | 169 | +14 | +9.0% |
| 上記除く | 337 | 336 | -1 | -0.3% |
| 開業医/健診 | 163 | 164 | +1 | +0.4% |
| 院内事業 | 120 | 119 | -1 | -1.1% |
| その他 | 16 | 16 | -0 | -2.4% |
| EBITDA | 60 | 76 | +16 | +27.1% |
| 営業利益 | -9 | 12 | +22 | - |

主なポイント：

- ゲノム関連検査は、対前年+9%と堅調に成長
- 販売価格の適正化は、計画通り進捗し、限界利益の増加に寄与
- 固定費削減施策も継続的に実施。営業利益は対前年+22億円

# ゲノム関連検査は、新規項目の拡販により、成長が加速

## ゲノム関連検査：四半期推移

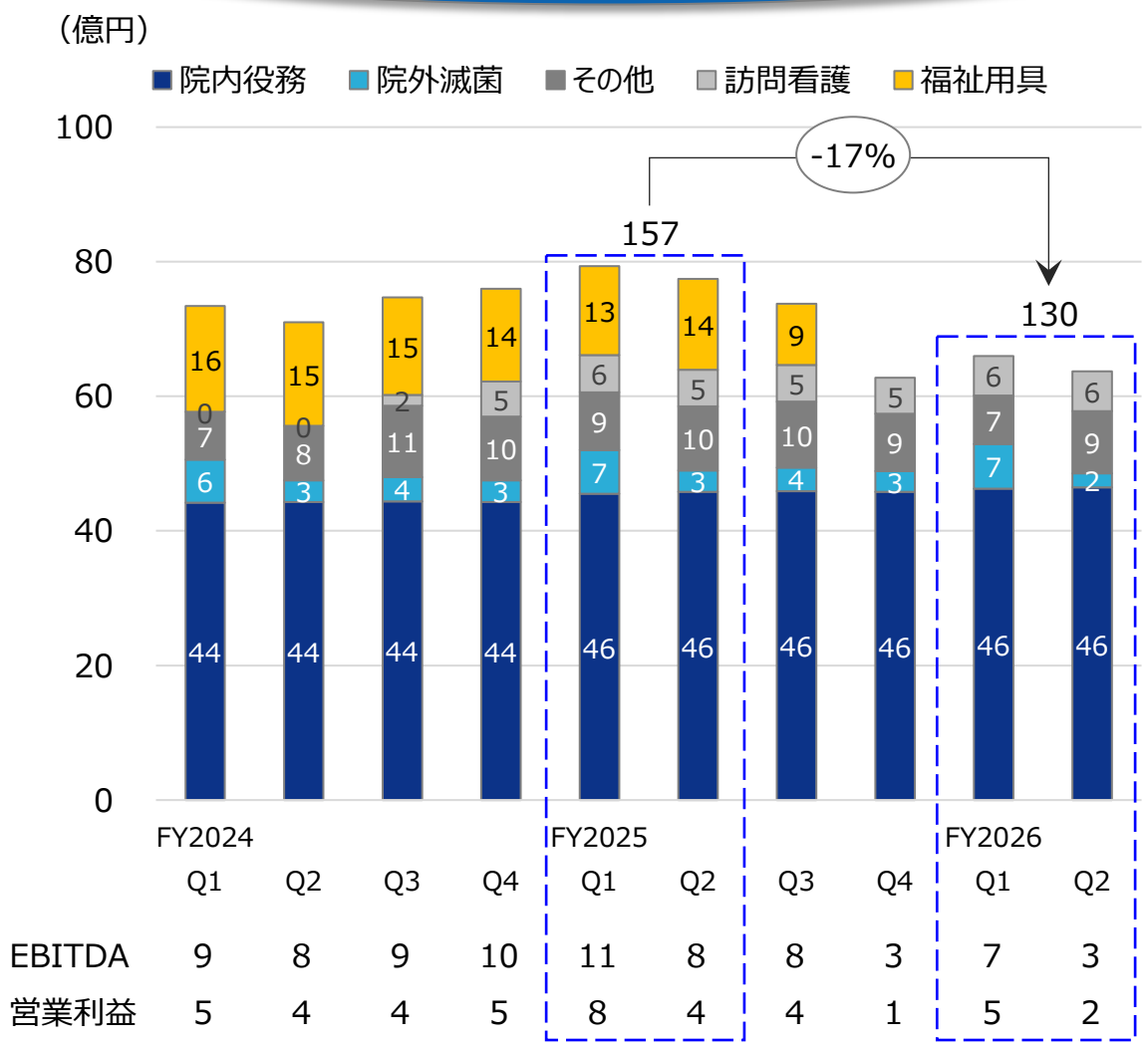



## トピックス

- ゲノム関連検査は堅調な成長を継続
  - 25年度中に受託開始した新規項目の成長が加速
    - 造血器腫瘍遺伝子パネル検査「ヘムサイト®」
    - OncoGuide™ OncoScreen™ Plus CDxシステム
- 「ふじのくにHOPEオンコパネル®」が保険収載（26年11月）
  - グループ横断での成功体験として、Oncology領域での更なる拡大を目指す

# 滅菌事業は、価格適正化が進捗したものの、人件費増により、減益

## 四半期推移




## 対前期比

| | 25年度 上期 | 26年度 上期 | 増減 | 率 |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 157 | 130 | -27 | -17.2% |
| 日本ステリ（滅菌・手術） | 119 | 118 | -1 | -1.0% |
| 院内役務 | 91 | 93 | +1 | +1.6% |
| 院外滅菌 | 10 | 8 | -2 | -21.4% |
| その他 | 18 | 17 | -1 | -3.2% |
| StarQガイア（訪問看護） | 11 | 12 | +1 | +7.9% |
| 福祉用具＊ | 27 | - | -27 | - |
| EBITDA | 20 | 10 | -10 | -48.4% |
| 営業利益 | 12 | 7 | -5 | -40.2% |

主なポイント：

- 滅菌・手術関連事業は、価格適正化等により、院内役務は増収
- 一方、人件費の増加により、営業利益は対前年減益
- 福祉用具事業連結除外影響
  (売上高 ▲27億円、EBITDA ▲7億円、営業利益 ▲2億円の影響)

＊ 2025年12月以降連結除外

# 3. 今後の経営方針（下期に向けて）

# 下期に向けた重点ポイント

**2026年5月に発表した「H.U.2030 2.0」に沿って、スピード感を持ち、各種施策を進める**

① **今期ガイダンスの達成に最注力**
- 上期に続き、下期も業績管理を強化。収益力の改善およびキャッシュフロー向上に注力

② **「一体化施策」の抜本的な見直し（各事業の“稼ぐ力”を高める）**（10月から着手済み、27年3月までに完了予定）
- 国内販売体制の再編（営業力・学術力の強化）：富士レビオ / エスアールエル 専属営業に分離
- コーポレート機能の役割の見直し（事業会社によるコントロールを強化）：プロキュアメント、IT、人事 等

③ **NEURO領域の成長へのコミットメント（グローバル成長の加速）**
- グローバルR&DをNEURO領域に注力：ルミパルス試薬・原料開発チームの80%は、今後3年間、NEUROに専念（現状 40%）
- 日本：承認取得されたルミパルスNEURO試薬の上市を速やかに進める

④ **事業ポートフォリオの見直し**
- 取締役会にて、方向性及びロードマップを議論。並行して、子会社・関連会社の再編は、下期から順次着手する
- より明確なグローバル成長ストーリー：中期目標値の達成に向けたロードマップの精度アップ
- 主要なKPI（ROIC / ROE / EPS）を重視した経営

# 今後の予定

**IR活動（国内･海外）に積極的に取り組む**

**①　IR DAY 2026の開催（2026年12月8日）**

- IVD事業に注力した説明会の実施（研究開発･製造･品証等）（八王子･相模原）

**②　J.P. MORGAN HEALTHCARE CONFERENCEへの参加（2027年1月14日）**

**③　海外IR面談の活発化**

H.U.GROUP

**将来見通しに関する注意事項：**

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定及び考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。